

淀江中学校区の取組

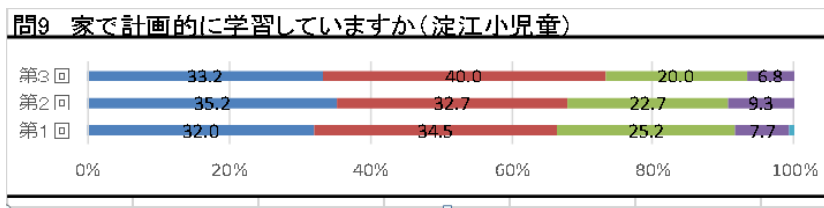
学びに向かう児童・生徒の育成

(1) 10の視点を意識した授業づくり

①勉強バリバリウィーク・自学がんばろうキャンペーン(⑨家庭学習と連動した学びの定着)

中学校では、生徒会主催で「自学がんばろうキャンペーン」を定期的に行っている。キャンペーン中は、どのクラスも提出率 100 パーセントをめざして互いに声かけをしながら取り組み、成果を上げている。

小学校では中学校の期末テスト前の部活停止時期と合わせ、家庭学習を充実させる取り組み「勉強バリバリウィーク」を実施した。チェックシートを家庭に配布し、目標や学習スケジュール等の記入してもらい、学校と家庭が連携して家庭学習の充実に取り組んだ。

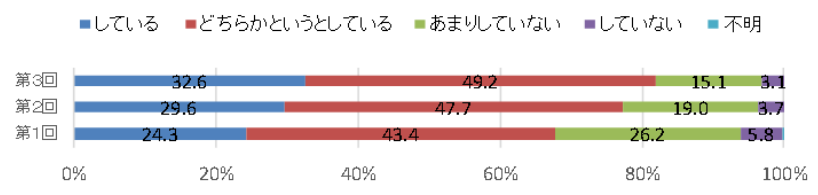


②自分の考えや思いを伝え合う話し合い活動 (⑥学び合う活動の充実)

中学校では、人権学習、行事、朝・終わりの会等などで、受容・共感したりする場面を多く持てるようにし、安心して話せる関係作りをめざす一方、各教科の授業においても、言語活動を積極的に取り入れた授業デザインを取り入れている。話し合いのスキルや留意点を共通理解し、ペアトーク、班の話し合いなどを、効果的に取り入れる工夫をした。

小学校では「学級会ノート」や「わくわくタイム」を活用し、話し合い活動を充実させ、「出し合う」「比べ合う」「生かし合う」「決定する」の段階に分けた合意形成の仕方などの話し合いを深める工夫をしてきた。

問5 授業の中で、自分の考えを説明するときに相手にわかりやすく伝える工夫をしていますか(淀江小児童)



また、望ましい人間関係や社会参画の態度を育てる基礎として、学級活動(1)を児童がとり組むことによって折り合いをつけるなど自主的に集団生活が営むことができるように働きかけている。6年間の活動の中で、自主的に運営ができるようになってきている。

計画委員会 → 学級会 → 事後の活動

学級での活動については学級会・ミニ学級会で児童が話し合い、活動内容、役割分担等を決定する。この話し合い活動の流れを基盤に委員会活動についても児童の主体的な活動の場として話し合いを大切に活動し、実践につなげている。

③補充学習の充実 (⑩落ち着いたのびのびと学べる環境づくり)

中学校では、テスト前学習会や長期休業中の学習会を計画し、併行してプレテストを行い、基礎的・基本的な学習内容を定着させることができた。



小学校では、パワーアップタイム・ふれあいタイムを通し、朝の時間を利用し、基礎的、基本的な学力の定着を図るとともに、児童の集中力やコミュニケーションスキルを高めるようにした。

《パワーアップタイム》

- ①音読, 暗唱など…声を出すことで脳を活性化させる。
- ②学年で決めたメニューを行う。

[月] コミュニケーションスキル (お話ピンポンなど)

[火] 国語 (しりとり, 言葉集め, 漢字指書き, 小テストなど)

(2) ICT教育

①ICT機器の活用



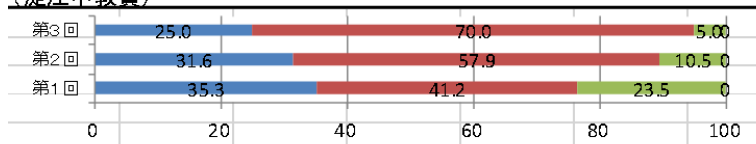
小学校では社会科、理科を中心とした調べ学習や、すべての学級に大型ディスプレイテレビが設置されており、児童の写した写真を視聴し合ったり、NHK for schoolの視聴をしたりしている。



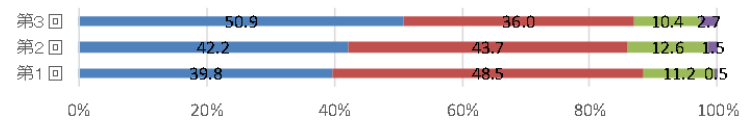
中学校では、「ICTを活用した言語活動の充実」を図るために全教職員による授業研究を伴う校内研修を実施した。また、全教職員が授業を公開し教科担当を中心とした授業検討会を実施した。ICT機器、書画カメラ等を活用した授業が増え、授業の中で、「わかった」「できた」「力がついた」と確かに感じている生徒の割合が増えてきている。また、ペアワークやグループ学習を取り入れる授業が増えてきた。

タブレットに入力した全班の実験結果、アンケートなどの全生徒の入力内容などを短時間でPCにまとめて拡大表示するなど、集約の時間を大幅に短縮しながら、わかりやすく効果的に提示する活用ができた。

問2これまで学んだことや日常生活とのつながりを意識させ、具体物を用いたり、実験や作業、視聴覚教材を使用するなど体験的な学習を取り入れていますか (淀江中教員)



問7 授業の中で、学んだことによって「わかった」「できた」「力がついた」と感じることがありますか (淀江中生徒)



②情報モラル教育



- ・情報モラル教育を基軸とした授業研究
- ・「情報モラル教育校内研修用 DVD」を活用した実践
- ・授業公開による取組の公開
- ・情報モラル実態調査（小・中）
- ・メディア接触時間調査（保・小・中）

小学校では、学級活動（２）の内容で、題材「ストップゲームいぞん」大作戦を４年生の学級にて、公開した。動画資料を活用して、ゲーム依存の傾向や問題点を理解し、自分自身の解決すべき課題を明確にして、解決方法を「自己決定」していった。

日常生活に支障をきたさないように、自分自身で、よりよい方法を見つけ、ゲーム機を有意義に利用できる力を養い、『自己指導能力の育成』を目指そうとしている。

中学校では、「身近にひそむネット依存にならないためには」（情報化社会の新たな問題を考えるための教材 文部科学省）を１年生の学級で公開し、事後研究を行った。動画資料を活用して、ネット依存の状態に陥ってしまったときの弊害を理解させ、ネット依存に陥ることなく、適切にインターネットと関わるができるような自己管理のあり方について考えさせた。

小学校での参観日後の教育講演会では、１～６年生の保護者と４年生以上の児童全員が、保護者同伴の教育講演会に参加した。鳥取県情報教育アドバイザーの今度珠美先生に、「ゲーム・ネットとの上手なつきあい方」について、ご講演をしていただき、子どもも、保護者も、学ぶことができた。「情報モラル」の現状を振り返り、真摯に考えるよい機会となった。

中学校では、全学年生徒・校区小中学校保護者・地域の方々を対象に、篠原嘉一先生に、スマホやネットに潜む危険について、数多くの事例をあげて話をいただいた。講演中、生徒達から「えー！」「まじ？」と思わず声のでてしまう場面もあり、表情は真剣そのものだった。避けては通れないネット社会の中で、正しい知識でトラブルを回避することがいかに大切かを実感できた。そして、生徒が退場した後、安全にスマホを利用するための設定について保護者対象の講習もあり、実際に自分のスマホを操作しながら、安全に使う方法を確認することもでき、保護者啓発にもなった。



(3) 小中一貫カリキュラムの作成 (国・社・理・英・情報モラル)

- ・家庭学習時間調査の実施 (小5・小6・中1～3)、保育園でも読み聞かせの時間調査などの実施。
- ・家庭学習と連動した授業の工夫。



(4) 縦割り活動

中学校

- ・体育祭と文化祭の縦割り (9月・11月)

学年の枠を超えて全校全体のまとまりを育てると共に、集団への所属感、連帯感を培っている。また、上級生にはリーダーシップをとって下級生をリードする力が育っている。

小学校

- ・全校遠足でのウォークラリー (5月)
- ・秋季大運動会での色別応援練習等 (9月)
- ・縦割りきずなタイム (通年)



《きずなタイム》

- きずなタイムは「縦割りきずなタイム」と「学級きずなタイム」を交互に実施する。
- 掃除なしで長い時間の休憩ができる日ではなく、縦割り班や学級での人間関係づくりのための大切な時間であることを指導する。
- 水曜日はゴミを出さずにきれいに過ごす日にすることを指導する。

(5) 特別支援学級小中交流会



毎年7月、2月に特別支援学級の交流会を実施している。

7月の交流会では、お互いに自己紹介をした後、「風船バレー」や「お茶タイム」を行い和やかな時間を過ごすことができた。

(6) 児童・生徒・地域の交流

①あいさつ運動

ひと月に1回、地域の更生保護女性会の方々や民生児童委員協議会の方々と一緒にあいさつ運動を実施した。中学校では年に数回全校から有志を募り、集まった約50人で小学校に出向き、小学生と一緒にあいさつ運動を行った。

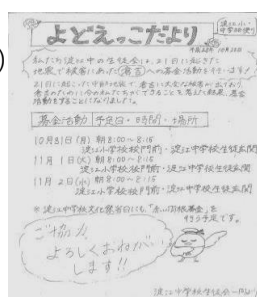
～地域の方々とも一緒に～



②募金活動

10月の中部地震後には、あいさつ運動に加えて募金活動を実施。小学校の運営委員会と生徒会執行部との話し合いから、どのような募金活動にするかを相談、決定し、実施した。

募金案内のパンフレット (右)
とその様子 (左)



③小中代表者ミーティング

小学校の運営委員会と、中学校の生徒会執行部でミーティングを実施。

9月、10月、11月とそれぞれ小学生が中学校へ、また中学生が小学校へ出向き、募金活動やあいさつ運動の実施方法や期日、時間、その他淀江の地域全体が元気になるための話し合いを行った。

また、2月の淀江中新入生説明会の前にとった小学生対象のアンケートから、生徒会メンバーが、説明会当日の内容を工夫し、小学生の不安を取り除く取り組みをしたり、卒業前の交流会で小学生の不安や疑問について聞き中学生がアドバイスをするなど、小学生が安心して中学校に進めるよう取り組みを試みた。単一の小学校から中学校へという淀江の特色を活かし、今後も継続して定期的にミーティングを持ちたい。

(7) 成果と課題

○成果

- ・ 小中連携して、話し合い活動やICT活用を基軸に言語活動の充実を図り、重点的な方法・指導内容を共有した取組を行うことができた。
- ・ 児童・生徒アンケートの「言語活動の充実」や「学びの質」の項目で、回を重ねるごとに肯定的評価が多くなった。また、学級会等、話し合いの場面で、言語活動の質の向上が見られた。
- ・ 中学校区の児童生徒の学力を追跡し、分析することで、詳細な実態が明らかになってきた。
- ・ 9年間を見通した「算数・数学」「情報モラル教育」の年間指導計画を作成することができた。

- ・ 小中とも家庭学習強化週間を共通して設けた。小学校では家庭との連携を主体に、中学校では生徒会の取組を主体として、児童・生徒の家庭での学習習慣の定着を図り、学力向上に努めることができた。
- ・ 小学校の運営委員会と中学校の生徒会が中心となって、「あいさつ運動」「募金活動」を行い、児童・生徒とのふれあいの機会を増やすことができた。

○課題

- ・ 小中の年間の学習内容を系統化し、関連を強めた学習内容にしていく必要がある。小中一貫カリキュラムの作成をより多くの教科で行い、活用と関連させた授業改善の取組を推進していくことが必要である。
- ・ 小中とも家庭学習に取り組む時間が県平均に比べて少なく、授業と連動させた家庭学習の充実を図る必要がある。
- ・ 小学校での「話し合い活動」で習得した学習スタイルを基盤として、中学校での言語活動の充実に取り組んでいくような連携をしていく必要がある。
- ・ 小学校と中学校の生活時間の違いから、気軽に相互の授業参観をするのが難しい現状があった。(例えば、小学校の1時間の授業が中学校では2時間の授業にまたがった時間帯になっている)
- ・ 小・中の教員の交流機会を増やすためには、年度初めに年間のスケジュールを調整する必要がある。